

TAKEICHIRO HIRAI 'CELLO RECITAL
<In Aid of Japan Earthquake>

平井丈一朗チャリティーリサイタル

—東日本大震災被災地支援—



ピアノ：
平井 元喜
piano : Motoki Hirai

2011年
7月21日(木) 7:00pm

津田ホール (JR千駄ヶ谷駅前)
TSUDA HALL - TOKYO

指定席 ¥7,000 / 自由席 ¥5,000

★このコンサートの収益金はNHK厚生文化事業団を通じて全額被災地へ寄付させていただきます。

- ヘンデル：チェロ・ソナタ ハ長調
G.F.Handel : Cello Sonata in C major
- ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第1番 ヘ長調 作品 5-1
L.van Beethoven : Cello Sonata No.1 in F major op.5-1
- バッハ：無伴奏チェロ組曲 第2番 ニ短調 BWV1008
J.S.Bach : Solo Suite No.2 in D minor BWV1008
- 平井丈一朗：祈りのアリア (新作初演)
Takeichiro Hirai : Aria - Invocation
- ポッパー：いつかの美しい日のように
D.Popper : Wie einst in schönern Tagen
- カザルス：鳥の歌
P.Casals : Song of the Birds
- ダヴィドフ：噴水のほとりにて
C.Davidov : At the Fountain

Takeichiro Hirai

平井丈一朗

Takeichiro Hirai

巨匠カザルスの高弟であり、かつ、その後継者としてわが国が世界に誇るチェリスト。

『Who's Who in the World』(欧米版「世界紳士録」)に載る数少ない日本人の一人。

1937年作曲家平井康三郎の長男として東京に生まれ、小学校時代すでにピアノ協奏曲ほか約100曲を作曲し、ピアノで演奏会、放送にしばしば出演。桐朋学園でチェロを斎藤秀雄氏に師事。第23回日本音楽コンクール第1位特賞、第1回文化放送音楽賞特賞、第1回カザルス国際コンクール特別賞、ソ連作曲家同盟特別賞など数々の内外コンクールで受賞。

1957年より5年間、世紀の巨匠パブロ・カザルスに師事。師とともに欧米各地を楽旅しつつ研鑽を積み、チェロ音楽の蘊奥を究めた。

1961年4月、巨匠カザルスは愛弟子の晴れの帰国デビューを飾るため特に来日し、平井は恩師の指揮により、東京と京都でドヴォ

ルザークなど四大協奏曲を演奏、皇太子・美智子妃殿下(当時)の御来臨を得て華々しくデビュー。以来ソリストとしての演奏活動は全世界40カ国にも及び、至る所で輝かしい成功を収めている。

カザルスは平井丈一朗を伴ってニューヨークの記者会見に臨み、世界中から集まったジャーナリストの前に「平井こそは我が後継者」と語っている。

1979年、世界でも例のない“弾き振りによる”三大チェロ協奏曲の夕べを開催。1980年以來、外務省及び国際交流基金の派遣により、日本国芸術使節として中南米7カ国並びに東南アジア諸国を歴訪、熱狂的歓迎を受ける。

1988年1月、皇太子徳仁殿下をお迎えし、自作「イスラ・ヴェルデの詩」を含むユニークなプログラムによりリサイタル開催。同年、米国ワシントンD.C.で開かれた第1回世界チェロ大会に、ナンシー・レーガン大統領夫人より招待を受け、特別ゲストとしてオープニングコンサートで演奏し、多大の感銘を与える。

1990年代以降の多彩な足跡の中からいくつかを拾うと、ヴァージニアの国際音楽祭芸術監督として、更にワシントンD.C.国立ケネディ・センターの全面招聘による米国公演の圧倒的成功などのほか、一連の“ワールド・ハンガー・コンサート”にも力を入れ、世界飢餓救済に尽くすアーティストとしても活躍。またポーランドにおける“平井丈一朗アウシュビッツ・コンサート”では満員の会場が深い感銘の渦につつまれた。2009年の欧州5カ国楽旅(英国、デンマーク、スペイン、ルーマニア、フランス)は、バルセロナで催された「カザルスと平井丈一朗・写真展」並びにテレビ出演と合わせて音楽界の話題をさらった。作曲家としては、管弦楽曲、ピアノ曲、チェロ独奏曲、歌曲、合唱曲など幅広いジャンルに特筆すべき業績を残し、他方、米国キャピタル音楽協会チェアマン、国際コンクール審査員、国内では詩と音楽の会(ACA)会長、日本音楽作家団体協議会(FCA)理事なども務めている。

今回のチャリティーリサイタルは、東日本を襲った大災害の被災地支援に少しでも役立ちたいとの平井の切なる思いから開催されるもので、既に計画されていたチェロリサイタルの曲目を大幅に変更し、恩師カザルスの「鳥の歌」をはじめ、現在作曲中の自作「祈りのアリア」を初演し、被災者の痛みを感じつつ被災地に平安が訪れる日の早からんことを祈るコンサートである。

外紙の批評より

☆エル・ムンド紙(バルセロナ)

平井丈一朗の演奏は驚嘆すべき純粋さと、時代に流されない確信性で貫かれていた。虚飾を排して音楽の本質に迫るその演奏はカザルスを彷彿とさせる格調高いものであり、胸を裂くような強烈な感動を呼んだ。平井元喜のピアノも音楽性あふれる素晴らしいもので、聴衆に強い印象を与えた。

☆ワシントン・ポスト紙(U.S.A.)

平井丈一朗は聴衆にチェロ演奏の何たるかを教えてくれた。…これ以上の演奏はあり得ないだろう。

☆フィガロ紙(パリ)〈平井丈一朗——音楽の予言者〉

彼は疑いもなく世界屈指のチェリストである。

☆タス通信(サンクト・ペテルブルク)

〈円熟の平井丈一朗——完璧の名人芸と洗練された味わい〉

平井元喜 Motoki Hirai (Piano)

平井丈一朗の次男として東京に生まれ、祖父康三郎にピアノと作曲を、祖母にヴァイオリンを学ぶ。桐朋高校を経て、慶應義塾大学哲学科卒、1999年、英国王立音楽院大学院ピアノ科卒。同年、“サー・ジャック・ライオンズ音楽賞”受賞。

これまで世界各地を演奏旅行。94年より日本政府の芸術使節としてフランス、スペイン、ポルトガル、デンマーク、ルーマニア、スリランカ、マレーシアなどで公演。05年“ヨーロッパ・デー”には「日・EU市民交流年」親善アーティストとしてロンドンで行ったピアノリサイ

タルが各紙に絶賛され、翌年にはEU(欧州連合)の後援を得てリサイタル。

09年4月、スメタナ・ホール(ブラハ)にてチェコ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団と協演し成功を収めた。ひきつづき欧州5カ国楽旅、イギリスの由緒ある“クラシックの殿堂”ウィグモア・ホール(ロンドン)、カザルス音楽堂(バルセロナ)、パリ日本文化会館ほかに登場。

これまでBBC、NHK“名曲リサイタル”、テレビ朝日“題名のない音楽会”等に数多く出演。

「平井元喜ピアノ作品集」(2009)などCD録音も多数。スタインウェイ・アーティスト。

現在、イギリスを拠点にヨーロッパで活躍し、「終始一貫あふれる音楽性」(サンデー・タイムズ紙)、「最も輝かしく感受性豊かな楽才」(ガーディアン紙)などと評され、その類まれな音楽性と詩的センスは世代を超えて共感を得ている。

本年3月4日ニューヨークのカーネギー・ホールデビューを果たし、絶賛される。4月から11月にかけては東日本大震災救援のための一連のチャリティーコンサートをロンドン、ブリストル、エジンバラほかイギリス各地で行っている。この中には、ウィグモア・ホールとスタインウェイ社の全面協力による同ホールでのリサイタルも含まれる。

www.motoki-hirai.com